

日本科学者会議

京都支部ニュース 7月号 No.485

2024年7月12日発行

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町95-3 延寿堂南館3階

Tel/Fax : 075-256-3132

E-mail : jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL : <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/>

ゆうちょ銀行振替口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：01050-6-18166

ゆうちょ銀行総合口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：14480-2800181

上記総合口座を他金融機関からの会費振り込みの受取口座として利用される場合は以下の内容を指定して下さい。
店名：四四八（読み ヨンヨンハチ） 店番：448 預金種目：普通預金 口座番号：0280018

目次

- ・田中雄三先生を偲んで（左近拓男）……………2
- ・『日本の科学者』読書会5月例会「科学者の国際連帯」……………3
- ・福島原発事故による健康被害について（その13）（大倉弘之）……………8
- ・共催企画7.19「核兵器をなくすために～いまわたしたちに何ができるのか～」……………10
- ・10.6 ひきこもり学会「第18回定例会」シンポジウム……………10
- ・「平和のための京都の戦争展」企画上映会「放射線を浴びたX年後Ⅲ」……………11
- ・支部主催・関連行事案内……………12
- ・支部幹事会だより……………13

<新年度会費の早期納入願い>

今年度会費の納入率は5月末現在、64%となっています。引き続き今年度会費（一般会員：14,400円、特別会費会員：7,200円、家族割会員：4,200円、若手会員：4,200円）の早期納入にご協力くださるようお願い申し上げます。過年度分の未納会費がある方は、あわせて納入いただきますようお願いいたします。4月に会誌をお送りした際に振込用紙を同封しておりますので、ご利用ください。

なお、ご不明な点につきましては、支部財政担当幹事・細川孝宛にメールでお尋ねください（Emailアドレスは、hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp）。

支部からの各種案内を受け取るメールアドレスの登録・変更がある場合は、下記サイトからお願いいたします。支部へのご意見も賜ります。

<https://forms.gle/bzqTZCQm816CUtDY9>



田中雄三先生を偲んで

京都支部事務局長 左近拓男

田中雄三先生が 2024 年 6 月 10 日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

田中先生は龍谷大学経済学部（専門：社会体制論）でご教鞭され、1998 年度から 2 年間、龍谷大学社会科学研究所の所長を務められました。マルクス経済学に関する研究をされていて、「社会主義経済のシステム転換—市場型社会主義と私的所有—」（社会主義経済学会報告、1992 年 29 号 p. 28）や、「脱社会主義経済の現状」（龍谷大学社会科学研究所叢書、1994 年）など、社会主義経済に関する考察研究のご執筆をされました。

田中先生は、2005 年に JSA 大阪支部の岩本智之先生と共に、科学者会議の中長期気候目標研究委員会（JSA-ACT）を立ち上げられ、初代の JSA-ACT の代表をされました。気候変動・温暖化に関する研究会を実施され、2 年に 1 回開催される総学では分科会を開催されて、JSA のみならず、関連の地球環境市民会議（CASA）などの団体や市民団体と共同で地球環境に関する議論を深められました。2010 年に仙台で開催された 18 総学では、気候変化問題を考える市民と科学者のタペ—COP16 にのぞむ—を企画されて、第 16 回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP16）に向けて何をしなければならぬのか、市民・NGO メンバーと科学者の情報共有と議論がなされました。その後も、JSA-ACT の例会の開催や、夏のセミナー合宿を軽井沢の田中先生の別荘で行うなど精力的に活動されました。

ソビエトに留学されて研究されていたこともあり、レーニンなどの訳本も執筆されました。A・ブズガーリン著・田中雄三訳「21 世紀とコムニズム」の訳者あとがきには、「地球温暖化京都会議では、いわゆる温室効果ガスの排出量をめぐって激論がたたかわされた。あのありふれた炭酸ガスが、こともあろうに法的拘束力をもつ国際的協定による排出量規制の対象にされるなどということを経世末の世界でいったい誰が予想しただろう。だが 21 世紀末の現在、地球規模での生産力の上昇と生産の社会化が事実としてすでにそこまで行きついているのであれば、「国際競争力」の呪縛から人々を徐々に解放し、持続可能な発展への確実な方向転換を開始し、20 世紀における夥しい流血であがなわれた貴重な平和から「文化の配当」をひきだし、ジェンダー問題、南北問題の切実な要請に真正面から応えるために、人類社会が、国際規制による労働時間の大幅な短縮をめざして環境問題に倍する激論をたたかわす以上に自然なことはないのではなかろうか。」と書かれています。標準労働時間の公平で民主的な国際的合意に基づく意識的規制が有効に働き、市場競争で国家主義を大前提としてきた質的変容と、各国の産業構造、歳出構成、税制などの「文化シフト」が進行すれば、社会保障その他の再配分機構の関わりで、所得・消費水準格差を縮小する課題が解決されると提案されています。さらに、これ

らの改革を環境問題と結びつけて、地球規模の気候変動・温暖化を抑制し、持続可能な社会が実現されることを提案されました。ご専門の経済学のみならず、グローバルな環境問題とその解決策について提言されたことは、先生の偉大な業績だと思います。

田中先生の成果とご意思を引き継いで、京都支部や全国、JSA-ACT の活動の活性化に尽力したいと思います。

『日本の科学者』読書会 6月例会（6/18）の報告： 5月号 特集：「科学者の国際連帯」

標記例会が6月18日（火）15時30分より17時30分までZOOMを用いて行われた。参加者6名。5月号の特集は「科学者の国際連帯」をテーマに構成されており、読書会ではそのうち3編の論文が紹介された。

鬼頭昭雄 “気象学と気候科学における国際協力”（報告：左近拓男）

この論文では、世界規模の気象観測データの即時交換システムについての解説がなされている。国際的な観測データ交換の理念、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)報告書の背景にある地球観測や気象モデリングにおける国際協力の進展について述べられている。

気象に関する国際機関の歴史：1879年に国際気象機関(IMO)が設立され、各国が行っている気象観測を統一的に行ない、データの交換を円滑に進めるようになった。国連の専門機関である世界気象機関(WMO)は1950年に設立された。「世界の気象業務を調整し、標準化し、及び改善し、並びに各国間の気象情報の効果的な交換を奨励し、もって人類の活動に資する」ことが目的である。1951年から世界気象監視(WWW)プログラムが開始された。各国がWMOの規定に沿って観測した世界各地の気象データを、GTSで決められた様式で決まった時刻にほぼリアルタイムで全世

界に共有。気象要素の他に、温室効果ガスなどの大気中微量気体やエアロゾルを監視対象とする全球大気監視(GAW)や、気象・環境分野の研究と現業との連携、WMOと他の国連機関との連携も行なっている。

国際的なデータ交換の理念：観測データ・情報は、気象・気候・水文・海洋・大気組成・雪氷圏・宇宙天気 of 7分野を対象としている。「気候変動、異常気象の頻度と影響の増大、食糧安全保障への影響といった問題に直面する中、社会のあらゆる部門が必要とする重要なサービスを支える気象、気候、水のモニタリングと予測データに対する需要の爆発的な増加に対応するため、世界のあらゆる地域からの観測データとその他のデータ製品のWMO加盟国間での自由で無制限の交換を更新し、強化しなければならない」。時空間的に一様でない多種類のデータを数値モデルの初期値とする4次元データ同化手法の発展により、主要各国の気象予報精度は向上を続けている。スーパーコンピュータにより将来の気象を計算するアンサンブル予報にか

かる時間よりも、初期値を作る計算時間により多くの資源を費やしている。多量のデータの即時交換には最新のデータ交換システムへの移行にかかるコストもあり、「主要先進国の国家気象機関による途上国支援」が進められている。

IPCC: IPCC は、1988年にWMOと国連環境計画(UNEP)により設立。「人為起源による気候の変化、影響、適応及び緩和策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行い、各国の気候変動に関する政策に科学的な基盤を与えること」。公表され査読を受けた科学技術論文に基づき気候変動に関する知識について評価。その報告書は政策決定に重要な情報を提供するが、政策の決定に参画するものではない。評価報告書の特徴の第一はその透明性である。IPCCは、これまで第1次から第6次の総合的な評価報告書を発表した。これらの評価報告書は、地球温暖化問題に対する国際的な枠組みを設定した国連気候変動枠組条約(UNFCCC)やその締約国会議(COP)、パリ協定など、国際的な気候政策決定に影響を与えてきた。

第1作業部会の「気候変動—自然科学的根拠」の主なポイント: 第1次評価報告書「人為起源の温室効果ガスは気候変化を生じさせる恐れがある(1990年)」, 最新の第6次評価報告書「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。大気、海洋、雪氷圏及び生物圏において、広範囲かつ急速な変化が現れている。気候システム全般にわたる最近の変化の規模と、気候システムの多くの側面における現在の状態は、数世紀から数千年の間、前例のなかったものである。人為起源の気候変動は、世界中のすべての地域で、多くの気象や気候の極端現象

に既に影響を及ぼしている(2021年)」

気象・気候研究と国際協力: 1957年7月から1958年12月まで実施された国際地球観測年(IGY)が国際規模の研究協力のきっかけとなった。全地球規模に拡大し、かつ対象も広げ、オーロラ、夜光、宇宙線地磁気、氷河、重力、電離層、経度緯度決定、気象、海洋、地震、太陽活動の12項目にわたる。

世界気候研究計画: WCRP (World Climate Research Programme): 気候の予測可能性と人間活動が気候に及ぼす影響を明らかにすること。1993年からユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)もスポンサー。

WCRPの目的: 気候システムの複合的な性質に関連する最も差し迫った科学的な疑問に関する研究を調整し、あらゆる国々と協力して、多くの学問分野から気候システムに関する答えを見つけること。国際的な科学研究の諸側面での調整とパートナーシップの確保・継続が必要。2015年のパリ協定の下での国家公約を含む国連気候変動枠組条約を支える気候科学を構築し、持続可能な開発のための2030アジェンダ、災害リスク軽減のための仙台防災枠組、多国間環境条約を支える知識に貢献した。成果例: 熱帯太平洋でブイによるモニタリング基盤が出来上がり、エルニーニョの解明と予測への端緒となり現在に引き継がれている。

気候モデル相互比較プロジェクト: IPCC第6次評価報告書(AR6): WCRPの結合モデル作業部会(WGCM)により企画・実行された第6期気候モデル相互比較プロジェクト(CMIP6, Coupled Model Intercomparison Project Phase 6)。1850~2014年に観測された温室効果ガスの排出量または濃度、人為的エアロゾル排出量、土地利用情報太陽定数の

変化、火山による成層圏へのエアロゾル排出量の時系列データが、各モデルセンターで共通に使用する境界条件として与えられている。工業化前の気候状態を再現する人為的強制力なしの実験との比較で人為的影響の検出と原因特定研究がなされた。温室効果ガス排出が非常に多いシナリオから非常に少ないシナリオまでの、将来起こりうる例示的な5つのシナリオを基にした気候予測実験が多く、多くの気候モデルで実施された。CMIP6には世界の26カ国・地域の52のグループ(140モデル)が参加、CMIP6データセット数は550万以上で、量は12PB以上に及ぶ(2021年末の値)。共通のプロトコル(手続き)での実験、膨大なデータの管理と提供体制の構築など、国際的な協力のもとに実施されており、そのデータを使って世界の研究者が解析し論文を執筆し、それらの論文を評価することでIPCC評価報告書が出来上がっている。

読書会では、IPCCはレビューが主体とのことだが、国際的な機構政策の決定により強い拘束力を与えられないかとの意見もあった。これを実現するには、「主要先進国の国家気象機関による途上国支援」の強化がより進められることが重要と考える。

嶋原敦子 “「フクシマ」以後の日本と世界—市民科学の役割と連帯への課題” (報告：大倉弘之)

本論文では、福島原発事故に対する宮城県南地域での経験に基づき、国際的、歴史的な背景を踏まえた市民科学の役割と連帯の必要性を論じている。

「はじめに」で、「フクシマ」(Fukushima)という言葉が、原発事故と核をめぐるグローバルな歴史的な文脈での共通用語として紹介

される一方、ヒロシマ・ナガサキ、ミナマタともつながる加害主体の責任や未来世代に残される長期的課題という普遍的な問題を「福島の復興」という言葉が覆い隠すと指摘する。

第1章では「原発事故被害の広域性と複合災害」と題して、2011年7月の宮城県北での汚染稲わらと牛肉出荷問題判明、また後に判明したと思われる、3月12日に女川原発モニタリングポストが21 μ Sv/hの値を示し東北電力が原子力災害特別措置法第10条通報を行っていたことにより明らかになった県全体の深刻な汚染実態に対して、例えば3月22日に知事が発した「安心宣言」や「食品の放射線測定は実施しない」「安心して食べてほしい」という記者会見発言、3月23日の東京都の水道水での規制値を超えるヨウ素検出に基づく食品測定強化指示により宮城県でも3月25日から食品等の放射能検査を開始したものの、福島と周辺の他県と比べて、特に県南での検査が遅れた実態により、住民の被ばく防護より「風評被害」が念頭に置かれる不作為の構図(論文要旨)が描かれている。

第2章では、そんな中特に宮城県南住民から、詳細な測定、情報開示、防護策を求める声が高まったものの、地震・津波対応に比べ、放射性物質への対応は後手に回り、4月以降、汚染状況不明のままの学校再開に対し、県内各地で市民自らが線量計を入手し校庭や通学路、公園などを測定する動きが広がり、ホットスポットを学校や行政に知らせても、除去土壌等汚染物の処理方針が不明確な中対応がまちまちだったと明かされる。また、そうした情報を共有する場や学習会が次々に開催され、例えば、「放射能から命を守る宮城県南部の会」が7月に発足し、「子どもたちを

放射能からまもるみやぎネットワーク」は当初「同福島ネットワーク宮城支部」として、県境を越えた住民交流により立ち上がり、6月17日には宮城県知事宛要望書（幼保小中学校の空間線量測定と情報公開，給食・土壌・飲料水の測定，測定機器の自治体への配備，校庭の除染，児童・生徒の中長期的な健康調査等）を，7月には丸森町を訪問した細野原発事故担当相（当時）に「福島県と同様の対策」を求める要望書を提出した。しかし，行政対応は県境を隔てて大きく異なり，対策の遅れや除染メニューの落差は顕著で，食と農の安全や，地域おこしに関わる人々，自然志向の移住者などが動き出し，子育て世代など不安を抱えていた人々とのつながりが地域に作られていった。

第3章では、「みんなの放射線測定室『てととと』」が11月23日に設立された経緯と機関紙等での情報発信を含む具体的な活動実績が示されている。一般市民，直売所や道の駅に出荷していた小規模農家や行政機関から紹介された生産者などが訪れ農産品の安全確認のための欠かせない場となった（2012年夏頃から各自治体に整備された測定所は自家消費用に限定）。同時に測定所は，汚染の話題がタブー化していた地域社会で安心して不安を語る場，対話と交流の場ともなった。

第4章では，上述の取り組みを，実態把握が不十分なまま「安全」メッセージが発せられた地域の中で，行動の判断材料となる科学的根拠を，行政や企業から独立した市民的立場から探り，地域の経験値として蓄積・共有を図った市民科学的実践と総括している（「市民科学」は，高木仁三郎氏が提唱・実践した）。一方，「復興」下でさかんに謳われて

いる「リスクコミュニケーション」は，行政対応の不備が招いた市民の不安を知識欠如のせいにし，事故責任を棚上げにし，汚染や被害の実態を見えにくくしながら市民社会に分断を招くと指摘する。

第5章では，まず，括弧付き「平和利用」が，1953年のアイゼンハワー演説「Atoms for Peace」に端を発し，東西冷戦化の核開発競争での主導権争いの中で戦略的に米国が打ち出したもので，核エネルギー技術に基づく「軍事利用」と生命・平和を脅かす点では本質的に不可分と指摘する。さらに，放射線防護の国際体制も米国主導の下に核兵器と原子力推進体制に沿うように生み出され，その後原子力産業と大学や公的研究機関が膨大な政府資金を介して結びつき「軍産学複合体」が形成された。こうした流れに乗って戦後日本に導入された原発の着実な増設を可能にした政治家・官僚・業界人からなる国策決定権を事実上独占する体制を吉岡斉に倣い「国策共同体」と呼ぶ。そこに批判的立場の人や一般市民が関与し得る制度はなく，経済成長優先の国策による問題や被害は矮小化されごく一部の地域的問題であるかのように見做され，公害の歴史が示すように，被害救済を求める闘いが長期化してきた。また，日米政府間では，福島原発事故からの知見・教訓の共有が約束され，事故処理に関する両国間WGが継続し，日米間の核関係強化に繋がっているとして，ハンフォード（軍事用プルトニウム生成を担った街で，風下住民が被ばく被害を受けた）をモデルにした福島被災地における「創造的復興の象徴」とするイノベーション・コースト構想が挙げられ，「復興」下で市民の意向が反映されることなく，安全基準のダブルスタンダード，焼却減容化を軸と

する放射性廃棄物処理、ALPS 処理水の海洋放出、除去土壌の再利用などを根拠づける「科学的知見」について市民的立場からの検証が必要と締め括っている。

「おわりに」では、2024 年元日の能登半島地震は原発事故が福島だけの問題ではなく、再び起こり得ることを示したと指摘し、災害時に多くの線引き等により不可視化される被害を可視化し、災害後の対応過程への市民的検証が不可欠とする。また、宮城県南部における取り組みの中では、チェルノブイリ事故やマーシャル諸島核実験などの核被害や、沖縄や水俣といった「国家の犠牲区域」を産む社会を問い直す繋がりも作られたと紹介され、さらに、現在「地球温暖化対策の切り札」として原発活用を正当化する言説が勢いを増していることに対して、他者にリスク受容や犠牲を強いて追求される「豊かさ」や「平和」を問い直し、原発推進国際協調体制に回収されない市民と科学者の連帯を作り上げることが極めて重要と指摘している。

報告者感想：これまでフクシマの問題に取り組む中で福島県周辺の問題が取り残されていることは感じていたので、その実態とその中ででの取り組みの経験を知ることができた。より詳しくは論文著者等による引用文献(9)、(11)、(16)で知ることができる。また事故対応に米国の影響は感じつつも具体的に WG の継続的開催までは知らなかった。大いに学ぶことができた。

山本富士夫“戦争体験の継承と 21 世紀の平和運動”(報告：清水民子)

本論文は、著者の専門分野(流体力学)における国際的学術活動と平和友好のための海外スタディツアー(LLAL)の体験、および

著者の父の戦争体験の語り部活動「二次証言」について記述し、その価値を問うている。

専門と学際国際活動 著者の専門とする「粒子画像流速測定法」(PIV:1980 年代に発展)の分野の国際学会において第 1 回(1995、福井)より実行委員長を務め、人脈を広げ、迎え入れた留学生やポスドク研究者の活躍につながった経験を述べている。

平和友好の海外スタディツアー 福井県アジア・アフリカ・ラテンアメリカ(AALA)連帯委員会を 2007 年に発足させて実施したスタディツアー(キューバ、韓国ソウル、マレーシア、インドネシアなど計 15 回)における体験を記している。

父の戦争体験と語り部活動 父・山本武氏(1913 生)の日中戦争従軍(1937~45)の記録、「陣中日記」を隼田嘉彦による翻刻を得て『山本武の「陣中日記」』として研究誌に掲載した。父は、家族にも長年語らなかつた戦争体験を後年、「従軍記録」として執筆していたので、死後、出版した。それには第 2 次上海事変 1937 年に動員された際、現地住民より食糧を「徴発」したこと、南京攻略戦において友兵が狙撃された復讐として、リンチ殺害(ハーグ条約違反)を行ったこと、徐州戦 1938 年では上官の命令により農民 50~60 人を殺害したことなどが慙愧の念をもって記されている。出版への反応は地元福井では新聞に掲載され、NHK の取材もあったが、右翼団体の回収要求や講演妨害にも遭った。国内では専門研究者より「貴重」と評価され、中国の研究者との交流により招待されて江蘇省(2018 年)や南京(2019 年)での講演につながった。

(感想) 戦争体験はまず被害体験から語られる。著者の父のばあい、晩年になってか

ら加害体験を記した。体験を語るとき、語り手は聴き手やまわりの人々の受けとめを忖度するもので、日本の戦争責任への反省の聲が国内に広がるようになってから加害体験を語る人も増えてきたのだと思う。また、著者の父が晩年にいたって筆を執ったのは、家族の成長と生き方を見て、聴く力の育ちへの信頼がそうさせたのだといえよう。

学術の国際交流活動は重要だが、国の政策として進められた面もあり、国際学会の開催や留学生・外国人研究者の受け入れには教育・研究現場の負担増をはじめ、さまざまな問題があったと思う。プラス面が語られることが多いが、科学者会議としては問題点の分析もほしい。本誌では中塚論文で「一人学際」などの指摘がある。

福島原発事故による健康被害について（その13）

映画「決断」連続自主上映会のご案内

「第39回原子力発電問題全国シンポジウム2024 敦賀」のご案内

大倉弘之

今回は、2つのイベントをご案内します。

映画「決断」連続自主上映会

これは、原発事故による健康被害を避けるため福島県から避難した10家族を描く映画であり、京都訴訟原告の3名も登場する。これまでも、全国各地で自主上映が重ねられてきたが、近畿圏でこの7～8月に開催される自主上映会をご案内する。過酷な「決断」を迫られた避難者達の証言に耳を傾けていただきたい。日程等は以下の通り：

映画「決断」(監督:安孫子亘, 2024年製作/89分)連続自主上映会

主催：原発賠償訴訟・京都原告団を支援する会

◆7月15日(月・祝) 奈良市北部会館 3階 多目的室1

・第1回上映10:00 ・第2回上映14:00 ・参加費500円

・共催:みどり奈良

◆7月20日(土) 京田辺市立社会福祉センター 3階 第1研修室

・開会 14:00 ・参加費 1,000円

・共催:原発ゼロプログラムの会

◆7月27日(土) 大阪市エル・おおさか 501

・開場 9:45 開会 10:00 ・参加費 1,000円

*2024 ZENKO in大阪 関連企画

◆8月3日(土) 京都市・下京いきいき市民活動センター 3階 集会室

・開会 14:00 ・参加費 無料(カンパをお願いします)



◆8月25日(日) Yourで映画とおしゃべり会(要予約)

- ・スイングキッチン Your(立命館大学敬学館西向かい, 嵐電龍安寺駅 徒歩7分)
- ・開場13:30 14:00~17:00 ・参加費1,500円(ワンドリンク付き)

詳細はQRコードまたは以下のURLより:

https://fukushimakyoto.namaste.jp/shien_kyoto/311ketsudan.html



「第39回原子力発電問題全国シンポジウム2024 敦賀」

～原発のない社会づくりのための検証と展望～

表記のJSA原子力問題研究委員会主催のシンポジウムが8月25日(日)に福井県敦賀市で開催され(前日に原発現地見学, 夕刻から交流会), 京都支部からは2名(山田耕作氏, 大倉)が発表する。プログラム等の詳細は同封のチラシを参照のこと。

なお, 参加申し込みは, 下記の参加申込様式の内容を(郵送ではなく)電子メールで山本雅彦原研委員長(masahiko@mbp.nifty.com)宛にお送りください。

「第39回原発問題全国シンポ2024敦賀」参加申込様式

2024年 月 日

お名前:

ご住所:

連絡先e-mail:

電 話:

所属または肩書き(よろしければ):

ご希望になる項目をに変えてください。

8月24日(土)13:30~現地見学会(JR敦賀駅前に集合)

8月24日(土)18:00~交流会(ニューサンピア敦賀・敦賀市呉羽町2・TEL0770-24-2111)

8月24日(土)宿泊:申し込みは, (株)エイビーシーツーリスト(担当:白川博志氏)

TEL 0778-54-4511 FAX 0778-54-4522 メール h_shirakawa@absea.co.jp

8月25日(日)9:30~原発シンポジウム

8月25日(日)お昼のお弁当

シンポジウムへのご賛同をお願いいたします。

賛同金 1口1,000円(予稿集を1冊進呈します) (口 円)

なお振込先は, ゆうちょ口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部(通信欄に, 「シンポ賛同金」と明記してください。)

(つづく)

「核兵器をなくすために～いまわたしたちに何ができるのか～」

主催 立命館大学核兵器ゼロ2024実行委員会

立命館大学の学生有志が自主的に企画した講演会です。JSA 京都支部も共催します。多数の方の参加をお願いいたします。

日時：7月19日（金）18時～19時30分

場所：アクロスウイング1階 アクロスラウンジ（ガラス張りの部屋）

※ZOOMにてオンライン中継も行います。

ミーティングID：922 0724 2933 /パスコード 401909

内容：コーディネーター／河音琢郎教授（立命館大学経済学部）

問題提起①／KNOW NUKES TOKYO 倉本芽美さん（立命館大学国際関係学部学生）

問題提起②／山崎文徳教授（立命館大学経営学部）

主催：立命館大学核兵器ゼロ2024 実行委員会

共催：日本科学者会議京都支部，日本科学者会議滋賀支部，立命館平和の会

立命館大学教職員組合，立命館ピース・ネットワーク，核戦争防止滋賀県医師の会

ひきこもり学会 「第18回定例会」シンポジウム

「受援力を高め私たちとつながろうよ」 後援 JSA 京都支部

準備会から数えて3回目のひきこもり学会シンポジウム。いわゆる「学会」とは異なり、当事者、家族、研究者が集い、現状の課題や展望を共有し、今後への展望を考え合います。今回は京都からのハイブリッド開催で、日本科学者会議「社会的ひきこもりと今日的な課題検討委員会」と共催です。京都の関係者、関係機関とつながる機会となりますよう、ご周知お願いいたします。

日時 10月6日（日） 13時より17時半

場所 立命館大学朱雀キャンパス（大阪健康福祉短期大学とのハイブリッドオンライン開催）

講演 「助けを求めてつながろうよ 受援力のスキルを身につけて」

吉田穂波氏（神奈川県立保健福祉大学）

堺からの報告；日花睦子（大阪虹の会），長浜真穂（みーにん訪問看護ステーション），廣瀬優子（大阪狭山市社会福祉協議会）

京都からの報告 ～ つながりが力になる

上坂秀喜氏（おやじの会），藤本文朗氏（東山不登校ひきこもり親の会）

伊田勝憲氏(社会的ひきこもりと今日的な課題検討委員会)

主催：ひきこもり学会

共催：日本科学者会議 社会的ひきこもりと今日的な課題検討委員会

後援：大阪経済大学, 大阪健康福祉短期大学, 日本科学者会議京都支部, 京都新聞(予定) 京都市社会福祉協議会 (予定)

協力：京都おやじの会 東山不登校・ひきこもり親の会

申し込み ZOOM 申し込み(10月4日まで) 立命館大学朱雀キャンパスは当日参加 OK

<https://forms.gle/vkgZTypjig8MKDQYA>

2024 年平和のための京都の戦争展企画

上映会「放射線を浴びたX年後Ⅲ SILENT FALLOUT」

核兵器廃絶ネットワーク京都が継続して普及活動を行っている自主上映会です。トリニティ実験以来、500回以上に及んだ大気圏核実験によるアメリカの国土の汚染状況やその汚染調査のために乳歯を集める運動を行った母親たちの奮闘が描かれています。

日時：7月31日(水) 14:00～16:00 解説(15分), 映画(76分)

会場：立命館大学国際平和ミュージアム2階セミナー室①

定員：40人(当日受付のみ) 参加無料

※上映会用媒体の貸出は、無償で行われています。作品を観た方に「支援金」を募って頂く寄付制となっておりますので、ご協力をお願いします。

主催 核兵器廃絶ネットワーク京都 (2024年平和のための京都の戦争展企画)

2024年(第44回)「平和のための京都の戦争展」は、リニューアルされた立命館大学国際平和ミュージアムに会場を移して、下記の期間に開催されます。

開催期間：7月29日(月)～8月3日(土)

主な企画：7月29日(月) 13:30 実行委員会企画「紛争地から見た憲法9条 ガザ, ウクライナ, アフガン取材して」西谷文和氏(ジャーナリスト)

8月1日(木) 13:30 自衛隊員の命と人権を守る京都の会「セキュリティクリアランスについて考える—重要経済安保情報保護法と人権—」岩佐英夫氏(弁護士)

8月2日(金) 13:30 平和友の会「食と戦争—ウクライナとパレスチナをつなぐもの」藤原辰史氏(京都大学准教授)

その他の企画は、本ニュース実行委員会 HP <https://heiwa-sensoten-kyoto.org/> あるいは末尾の案内チラシを参照してください。

支部主催・関連行事

1. 京都支部 7月読書会 (ZOOM)

日時：7月23日(火) 15:30-17:30

特集：2024年6月号「環境アセスメントはどうあるべきか」

小島論文(左近) / 桜井論文(清水) / 夏原論文(前田)

<https://us06web.zoom.us/j/87320343435?pwd=0DZ5ymwXfHi1AOwppqxWA6goRYFME0.1>

ミーティング ID: 873 2034 3435

パスコード: 413382

2. 京都支部 8月拡大読書会 (ZOOM とのハイブリッド開催)

日時：8月21日(水) 14:00-16:30

会場：コンソーシアム京都

日本の科学者 8月号「日本における介護福祉の貧困化と政策課題」を読む

話題提供：石田史樹「マクドナルド化する介護労働」

藤本文朗 特集企画に関わって

近藤真理子：新井論文「企業依存する介護人材養成・確保と専門性の否定」

Zoom ミーティング

<https://us06web.zoom.us/j/89158728544?pwd=qteNxXHfJlOkYx5h91OreHBgE0H8QO.1>

ミーティング ID: 891 5872 8544

パスコード: 861584

3. 原水爆禁止世界大会・科学者集会

—SCIENTISTS FORUM of World Conference Against A&H Bombs—

メインテーマ:ビキニ被災70年から被爆80年へ

核兵器禁止条約への日本政府の参加を求めて

日時:2024年7月27日(土)13:00~16:00

会場:静岡大学静岡キャンパス内&オンライン ハイブリッド開催(zoom)

主催:原水爆禁止世界大会科学者集会 2024 実行委員会

<参加申込>

下記 URL に掲載されている QR コードからお申し込み下さい。

<https://qr.paps.jp/IZAq>

*オンライン参加の方には後日 zoom のリンク等が通知されます。

4. 「核兵器をなくすために〜いまわたしたちに何ができるのか〜」

日時：7月19日(金) 18時~19時30分

場所：アクロスウイング1階 アクロスラウンジ (ガラス張りの部屋)

※ZOOMにてオンライン中継も行います。

ミーティング ID : 922 0724 2933 / パスコード 401909

5. 2024年平和のための京都の戦争展企画

上映会「放射線を浴びたX年後Ⅲ SILENT FALLOUT」

日時：7月31日(水) 14:00~16:00 解説(15分), 映画(76分)

会場：立命館大学国際平和ミュージアム2階セミナー室①

定員：40人（当日受付のみ） 参加無料

※上映会用媒体の貸出は、無償で行われています。作品を観た方に「支援金」を募って頂く寄付制となっておりますので、ご協力をお願いします。

主催 核兵器廃絶ネットワーク京都（2024年平和のための京都の戦争展企画）

6. 2024年（第44回）「平和のための京都の戦争展」

開催期間：7月29日（月）～8月3日（土）

会場：立命館大学国際平和ミュージアム

入場無料，実行委員会 HP：<https://heiwa-sensoten-kyoto.org/>

7. 第39回原子力発電問題全国シンポジウム2024 敦賀

テーマ「原発のない社会づくりのための検証と展望」

第1日 8月24日（土）午後13:30～ 原発サイト見学，18:00～ 交流会（ニューサンピア敦賀にて）

第2日 8月25日（日）9:30～15:30 ニューサンピア敦賀（若狭の間）

主催：日本科学者会議（JSA）原子力問題研究委員会，主管：JSA 福井支部

◆◆◆◆ 支部幹事会だより ◆◆◆◆

1. 会員の現況（7月1日現在）

一般会員： 151

特別会費会員： 3

家族割り特別会費会員： 2

若手会員： 13

【会員合計】 169人 読者：3人

2. 2.会費納入状況(7月1日現在)

一般 104/151(前納8を含む ※ 他に2025年度の前納3)

特別 0/3

家族 2/2

若手 3/13

3. 2024年 6月決算

2024年度累計		2024年6月決算	
収入累計	1,549,952円	6月收入合計	175,026円
支出累計	555,867円	6月支出合計	157,849円
収支累計	994,085円	6月分収支	17,177円
前年度繰越金	175,286円	前月繰越金	1,152,194円
6月末残高	1,169,371円	6月末残高	1,169,371円

日本の国はふたたび戦争しない
固く誓いました

戦争反対 心より訴えます

ウクライナでの戦争を終わらせましょう

ガザでの戦闘を停止させましょう



2024年(第44回)
平和のための京都の

戦争展

KYOTO Warfare Exhibition for
Defense of Peace

7/29(月) >> 8/3(土)

9:30 ~ 16:30 (8月3日は15:30終了)

立命館大学国際平和ミュージアム

中野記念ホールを中心に

京都市北区等持院北町56-1

[市バス「立命館大学前」下車徒歩5分]
[市バス「わら天神前」下車西へ徒歩7分]

駐車場・駐輪場はありません。
公共交通機関をご利用ください。



入場無料

よびかけ人
五十音順
敬称略

安齋育郎(立命館大学名誉教授)、井口和起(福知山公立大学名誉学長・京都府立大学名誉教授)、井上勇一(京都キリスト教協議会会長)、岡野八代(同志社大学大学院教員)、勝村誠(立命館大学教授)、河本一成(核戦争防止・核兵器廃絶を訴える京都医師の会代表)、木越涉(真宗大谷派(東本願寺)宗務総長)、久米弘子(弁護士)、茂山あきら(狂言師)、高石ともや(フォークシンガー)、原田敬一(佛科大学名誉教授)、広原盛明(京都府立大学元学長)、松本章男(随筆家)、宮城泰年(聖護院門跡門主)、森清範(清水寺貫主)

後援

京都新聞 KBS京都 朝日新聞京都総局 毎日新聞京都支局 共同通信京都支局 京都キリスト教協議会 京都府保険医協会 核戦争防止・核兵器廃絶を訴える京都医師の会 長浜バイオ大学

主催

平和のための京都の戦争展実行委員会

京都市上京区新町通丸太町上る春帯町350 (事務局) 日本機関紙協会京滋地方本部
TEL 075-231-3048 FAX 075-254-2341
Email: sensoten.iken@kyotokikanshi.org https://heiva-sensoten-kyoto.org



展示と文化企画・子ども向け企画(裏面参照)

特別企画講演会

入場
無料

第1弾 /

7月14日(日) pm2:00~4:30

キャンパスプラザ京都 第1講義室
(京都市下京区 JR京都駅西へすぐ)

講演 台湾・沖縄から
「大国」主義を問う

講師 駒込 武氏(京都大学教授)

主催: 平和のための京都の戦争展実行委員会
日中友好協会京都府連合会
立命館大学社会システム研究所アジア社会研究会

第2弾 /

7月20日(土) pm2:00~4:30

キャンパスプラザ京都 第3講義室
(京都市下京区 JR京都駅西へすぐ)

講演 アジア太平洋戦争における
兵士のトラウマ

講師 中村 江里氏(上智大学文学部准教授)

主催: 平和のための京都の戦争展実行委員会
立命館大学社会システム研究所アジア社会研究会

学んで話しあって平和を創ろう

文化企画

* 時間割は、都合により変更される場合があります。ご了承ください。
* 日によって会場が変わる場合があります。
日時・会場をよくお確かめください。

別会場のため
ご注意ください

		7月29日(月)	7月30日(火)	7月31日(水)	8月1日(木)	8月2日(金)	8月3日(土)
セミナー室①	午前	10:00~12:00 戦争プロパガンダ研究会講演会「戦争プロパガンダと大衆操作」 河田 隆史氏	10:00~12:00 戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会「口丹波の戦争遺跡」 田中 仁氏		10:00~12:00 戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会「韓国・済州島平和ツアー報告」 奥村 英継氏	10:00~12:00 治安維持法国際同盟京都府本部「京都関連治安維持法事件・犠牲者」 勝村 誠氏 (立命館大学教授)	末川会館 第3会議室 10:00~12:30 日中友好協会京都府連ドキュメンタリー映画「私たちの青春、台湾」 (博倫監督 2017年)上映 解説：三須 祐介氏
	午後	末川会館 101教室 1:30~4:00 戦争展実行委員会企画「紛争地から見た憲法9条ガザ、ウクライナ、アフガンを取材して」 西谷 文和氏 (ジャーナリスト)	1:30~3:30 京都平和遺族会「いま“靖国”を問う—遺児集団参拝と強制合祀」 松岡 勲氏 (立命館大学非常勤講師)	1:00~1:30 朗読サークルことのは「千鳥ヶ淵へ行きましたか」 2:00~4:00 核兵器廃絶ネットワーク京都 映画「放射線を浴びたX年後Ⅲ Silent Fallout」	1:30~4:00 自衛隊員の命と人権を守る京都の会「セキュリティクリアランスについて考える—重要経済安保情報保護法と人権—」 岩佐 英夫氏 (弁護士)	1:00~3:00 日本史研究会ミニシンポ「戦跡の戦後史と『継承という断絶』」 福岡 良明氏 (立命館大学教授)	末川会館 第3会議室 2:00~3:30 日朝協会「日本の植民地支配責任を考える」 板垣 竜太氏 (同志社大学教授)
						立命館大学敬学部 2階KG208号教室 1:30~4:00 平和友の会「食と戦争—ウクライナとパレスチナをつなぐもの」 藤原 辰史氏 (京都大学准教授)	末川会館 第2会議室 1:00~3:30 自衛隊員の命と人権を守る京都の会「祝園弾薬庫増設問題を考える」 坪井 久行氏 (精華町議会議員) 他
						末川会館 第3会議室 1:00~4:00 中国人戦争被害者の要求を支える会「仮題」 講師：未定	

ホール企画

8月3日(土) 10:00~11:30 うちなんちゅう有志の会 「沖縄の話・三線」
12:00~1:00 懐かしの昭和歌謡デュオ 「ファニーと青爺」

		7月29日(月)	7月30日(火)	7月31日(水)	8月1日(木)	8月2日(金)	8月3日(土)
セミナー室②	午前		11:00~12:00 京庫連 紙芝居とブックトーク ①戦争のとき子どもたちのくらしは	11:00~12:00 京庫連 紙芝居とブックトーク ②満州へ行った子どもたち	11:00~12:00 京庫連 紙芝居とブックトーク ③日本各地の空襲と沖縄戦	11:00~12:00 京庫連 紙芝居とブックトーク ④原爆はどんな兵器でどんな被害をもたらした?	
	午後	1:00~2:00 子どもを守る会 紙芝居「ゾウさんの死」「オマールさんを訪ねる旅」		1:00~2:00 子どもを守る会 紙芝居「ゾウさんの死」「オマールさんを訪ねる旅」		1:00~2:00 子どもを守る会 紙芝居「ゾウさんの死」「オマールさんを訪ねる旅」	

戦争展関連企画

城陽・平和のつどい
7月28日(日) 午後1時30分開場 2時開演 会場：鴻の巣会館(城陽市寺田・JR城陽駅徒歩10分)
京都・あくまで平和な合唱団 うたとおはなし 合唱組曲『悪魔の飽食』ほか

戦争展成功のための募金にご協力ください。皆様のご厚志お待ちしております。

右記郵便振替にて 01030-2-25678
平和のための京都の戦争展実行委員会

放射線を浴びたX年後Ⅲ

上映会

SILENT FALLOUT

日時 ▶ 7月31日(水)14:00~16:00 解説(15分)、映画(76分)

会場 ▶ 立命館大学国際平和ミュージアム2階セミナー室①

定員 ▶ 定員40人(当日受付のみ) 参加無料

※上映会用媒体の貸出は、無償で行われています。作品を観た方に「支援金」を募って頂く寄付制となっておりますので、ご協力をお願いします。

主催 核兵器廃絶ネットワーク京都 (2024年平和のための京都の戦争展企画)



アメリカ史上最も重大で、最も知られていない事実



SILENT FALLOUT

ナレーション
加藤登紀子

監督 伊東英朗
(『放射線を浴びたX年後』)

日本人監督が、アメリカ国民に突きつけるアメリカ大陸全土の放射能汚染。

日本は、世界で唯一の被爆国ではなかった。アメリカ政府によって大陸に落とされた101個の原子爆弾。核実験によってアメリカ大陸は強く放射能汚染。しかし、アメリカ政府は、そのことを国民に隠した。

「このままでは我が子が放射能で殺される」

立ち上がったのは、母親たちだった。中心となったのは、医師であり母親であるルイズ・ライス。放射能汚染はユニークな方法で証明された。それは、子どもたちの乳歯。母親たちは子どもの放射能汚染を証明。そして、その事実はケネディ大統領をも動かした。現在、監督は、アメリカで映画上映を通し、米大陸が放射能で汚染したこと、その事実を政府が隠したことを知らせ、声を上げるよう促す活動を行っている。目標はアメリカ議会を動かし、世界の放射能問題を大きく変えること。

2023年完成・76分

監督 伊東英朗